

市民学芸員活動報告 平成25(2013)年6月 第4号



みはら玉手箱



隆景公

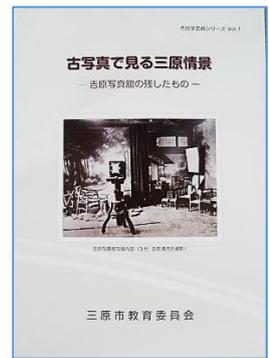
平成25年4月21日（日）、「平成25年度市民学芸員実践講座」が開講しました。

各グループの活動目標

市民学芸員実践講座には、3つのグループがあります。開講にあたり、今年度の活動目標について話しあい、下記候補が上がりました。

1. 収集グループ

- (イ) 「古写真でみる三原情景 volⅡ」の製作
- (ロ) 宮本常一氏古写真の写真展の開催
- (ハ) 山陽本線開通記念事業の取り組み



〔前年度の作品例〕

2. 情報発信グループ



- (イ) 三原市教育委員会生涯学習課ホームページの「みはら玉手箱」欄 第4号以降を継続発行する
- (ロ) 将来、上記ホームページへの市民参加を呼び掛ける

3. 体験グループ

- (イ) 城下町ウォーク
 - (ロ) まちかど探訪
 - (ハ) 山城に登ろう
 - (ニ) 西国街道を歩こう
 - (ホ) 子ども向け講座の開催
- 前年度に実施した → 「お城の周りを探検しよう」



各グループの分担テーマ

平成25年度の掲載予定

4月号	エヒメアヤメ
5月号	三原城跡
6月号	秦森 康屯
7月号	久井の岩海
8月号	ちんこんかん
9月号	三原駅
10月号	三原城下町（西町編）
11月号	清水 南山
12月号	三原の映画館
1月号	小早川隆景
2月号	神明市
3月号	三原の滝

「広報みはら」の最終頁は、平成25年4月から平成27年3月まで、市民学芸員が担当します。「親子で学ぶ みはら玉手箱」として、タコ博士とアヤメちゃんが会話形式で、三原の歴史・民俗・自然・人物などを、3つのグループが分担して、分かりやすく解説します。



4月号
「エヒメアヤメ」



5月号
「明治時代に桜山から撮影された三原城跡」



みはら おもしろクイズ



(解答は次頁の最下段にあります)

三原城の石垣

三原城の石垣には、様々な工夫があります。石垣を詳しく眺めることで、そこに秘められた石工の苦勞や時代の流れなどを知ることができます。

1. 天主台の石垣

4隅を大きく張出した形状で、その稜線の見事な曲線は、惚れ惚れする美しさであります。



〔北東隅方向から見た朝日に輝く天主台跡〕



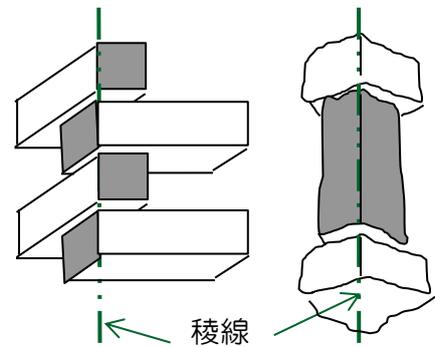
〔南西隅の稜線部〕

1.1 稜線部の積み方

南西稜線部の石は、自然石の形を保ちあまり加工されておらず、積石の中に縦長の巨岩もあります。

北東稜線部の石は、算木のように直方体に加工した石を、交互に積んで、崩れにくくしています。算木積(さんぎづみ※)といい、慶長10(1605)年頃に完成した技術だそうです。

※算木…和算や占い等に使用された1cm角×6cm程度の木製角棒



〔北東隅の稜線部〕

〔南西隅の稜線部〕

小早川隆景が1567年に築城し、1600年に福島正則が2代目の城主となりました。この算木積有無等から、天主台石垣の南西隅は、小早川隆景時代のままで、その他の部分は、福島正則時代に修築された姿と考えられています。

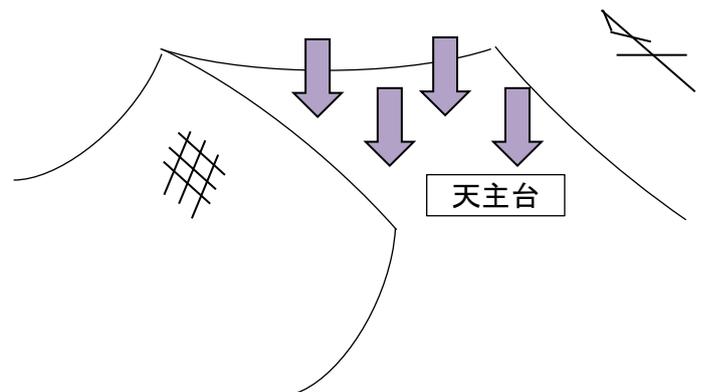
1.2 石垣の湾曲と勾配

三原城の天主台石垣は、右図のように垂直方向、水平方向ともに、きれいに湾曲しています。

この湾曲により、天主台に ↓ 印方向の加重が掛かれば掛かる程、積んだ石同志がせりあって、ハラミ(石垣が外側にはみ出ること)を起こしにくくしているそうです。

なお、勾配は、他の城の石垣に比べ緩やか(三原城45度~55度)のようです。

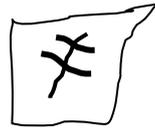
これにつきまして、戦国時代の小早川隆景は、もっと急勾配で築城したが、泰平の世の江戸時代に緩やかな勾配に築きなおしたのではないかと見る専門家もおられます。



3. 石垣の刻印



〔 五番櫓石垣隅部 〕



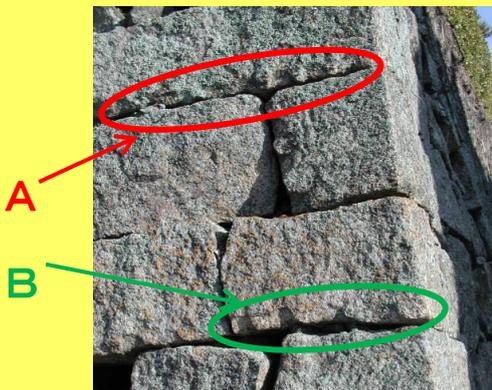
〔 現三原郵便局（城町）周辺に
集積された石垣にある刻印 〕

石垣にある**刻印**は、石工組頭のサインといわれています。石垣工事には、複数のグループが携わっているので、作業範囲を明示し、責任を明確にする目的で印されたようです。

（ 大坂城等は、**天下普請**といわれ、全国の大名が工事を分担したので、
各大名の紋章が刻まれています。 ）

クイズ

- (1) 石の縁にある彫りこみ**A**や**B**は、何でしょうか。
 (ア) 工事の過程で付いたキズ
 (イ) 石を綺麗に割るために使ったクサビ跡



- (2) 三原城天主台の**広さ**は東西55m、南北50m
 天主閣は、織田信長が安土城に建てた(1576年)のが始まりといわれ、小早川隆景が築城した
 当時には、まだありませんでした。三原城天主台は、広島城の天守閣が何個まで入る広さ
 でしょうか。
 (ア) 2個 (イ) 6個 (ウ) 10個

ご意見拝聴 !

市民学芸員の学習成果を発表する「みはら玉手箱」は、今回で第4号目の発行になりました。

ご意見を下記にお寄せください。
 いただいたご意見は、今後の紙面作成の参考にさせていただきます。

〔連絡先〕
 三原市教育委員会生涯学習課

「みはら玉手箱係」

TEL 0848-64-2137

E-mail ; syogai@city.

mihara.hiroshima.jp





三原のお祭り



いなり 久井稲生神社ぎおん祭り

久井町江木にある稲生神社は、伏見稲荷大社の分霊として最も古いものの一つで、近郊随一の歴史と社殿を誇り、人々に「久井のいなりさん」として親しまれています。（明治4年、稲荷を稲生に表記変更された）

この境内にある八重垣神社の夏祭りは、「ぎおんさん」と呼ばれている例祭で、今年は7月14日(日)に斎行されます。

この祭りが描かれている「祇園祭禮繪巻（ぎおんさいれいえまき）」には、当時の祭りの賑やかなありさまがいきいきと描かれ、作者や制作年代は記されていませんが、紙質などから江戸時代のもものと推測されています。その巻頭記によると、「大永2(1522)年、久井高根山（たかねやま）城主、山名左近が八重垣神社に参拝した折、氏子8カ村が賑やかしとして奉納した踊りに由来する」とあります。このように500年に近い歴史を持つ、稲生神社ぎおん祭りは、現在も町内7つの地区の人たちによって、昔の姿そのままに大切に受け継がれています。踊りは、御霊会（ごりょうえ）の信仰ともなった古い形をよく伝えているもので、広島県無形民俗文化財に指定されています。



〔 八重垣神社 〕

祭りは、午前7時半、八重垣神社で神事・修祓（しゅうばつ）のあと厳かに祝詞が奉上され、氏子の繁栄、無病息災、五穀豊穡が祈願されます。その後、暑い日差しがギラギラと照りつける中、境内にある本殿や八重垣神社、冥府社、神楽殿の前で、**踊り**・**杖使い**・**獅子舞**などを、地区ごとに順番に披露・奉納します。



杖使いは雨乞い・虫送りの踊りで、子どもたちが頭にシャグマを付け、鉢巻・袴に袴で、色紙を飾った竹棒を手にして軽やかに踊ります。念仏踊りの形式を残し、豊作を祈願する農民の願いが込められています。



踊りは、船節・花の踊・つぼね・ひめご・宮島など数多くあり、踊り手は赤い絹を垂らした風流笠を被り、浴衣に前垂れ、手甲をつけ両手にバチを持ち、腹には小太鼓、下駄や草履ばきで円陣で踊ります。鉦や大太鼓の伴奏に合わせて緩やかなテンポの踊りは格調高く御詠歌調です。



一番華やかなのは「継ぎ獅子」という獅子舞で、支える人と上に乗る獅子との呼吸がぴたりと合ったところに、剽軽なひょっとこがおもしろおかしくこれに絡みます。また、雌雄二体の夫婦獅子による、人さながらの愛情豊かなしぐさは、思わずほのぼのとした笑いを誘います。

町民総出の、老若男女一丸となった、この由緒ある伝統行事が終わると、久井高原は一気に夏本番を迎えます。

〔 文中の写真は、地域伝統文化伝承みはら地区実行委員会制作のDVD「久井稲生神社 ぎおん祭りのおどり」からの抜粋によります 〕

石碑が語る三原の歴史

みはら玉手箱第3号では第2号の続編として沼田川の北側にスポットを当て、現存する少し忘れられかけている石碑を紹介しました。第4号でも本郷地域及び周辺を続々編として取り上げました。

道 標



茅の市の道標

現在の三原市下北方二丁目付近は「茅の市」と呼ばれ、「本郷町史」によれば、昔この一帯は茅の原野があり、茅原と呼ばれていたが、屋根葺用の茅草を売買する人々が集まり、市が立つようになり、地名の由来になったところだ。茅は主として神社、仏閣、大地主等の屋根に用いられ、一般庶民の屋根は、稲わらや麦わらで葺いたようです。

現存の道標は、お互いが重なり合っており、判読し難いですが、小さい道標の頭に東西南北が刻んであるのが分かります。三面に「東 本郷 三原」「西 竹原 呉 西条 広島」「南 小泉 忠海」と刻まれているようです。小泉、忠海に通じる道は、三次浅野氏が飛地の忠海に港を設け、藩の役人たちが当茅の市を通っていたことから「三次往還」の名がついたと言われています。

(参考:中国地域づくり交流会編西国街道を行く)

記念碑



こしき
甑 天満宮の標柱(しめばしら)

茅の市と原市にまたがる東端の小高い丘に、菅原道真を祀る「甑天満宮」が鎮座しています。その石段下道端に、2基の標柱が立っています。伝承によると、菅原道真が左遷されて九州大宰府へ下向の途中当地へ立ち寄ると、土地の人々が水不足で大変苦勞しており、道真が自ら井戸を掘り始めると、清水がこんこんと湧き出して人々を救った。(菅公御手掘井戸として古い井戸が現存しています) 里人は道真が所持していた干飯(ほしいい)を甑(米などを蒸すのに用いる器で瓦製。形は丸く、底に蒸気を通す穴があいている。後の蒸籠(せいろ)にあたる-広辞苑より)で蒸して差上げたそうです。その後、その甑を納めて祀ったのが、この甑天満宮といわれています。右の標柱には「菅公御一行が暫くこの地に足を留められた神聖な場所であり、甑と井戸が祀られた霊場である。厳かに祀って、神意を伺おう」

左の標柱には「季節は順調に移ろい、五穀は豊かに実った。人々は皆健やかで、長寿を保ち、幸せな日々を送っている。お供えした山の幸、海の幸の香が芳しく薫ってくる。めでたいことだ」。という意味の漢詩文が刻まれています。左の標柱内面に、筆者として筑前 亀井鍊の名が、また左右の標柱の背面には、建立は安政三年丙辰 九月吉日、建立者して松浦又兵衛充芳、中村利三郎為勝、杉野長平直信、中村小三郎頼精の四人の名前が刻まれています。いずれも当時の松江村か下北方村の庄屋であつた人たちといわれています。

(参考:本郷町教育委員会編本郷文化)

句碑・詩



高坂町の佛通寺境内に立つ川柳の句碑。
横 150cm、高さ 120cm。
詠み人は三原市旭町出身の八島白龍(本名敏郎)
日本の川柳界を代表する 100 名の作家の一人。
句会報誌「備後番傘」の創始者でもあります。
白龍氏自筆の句を刻んだもので、裏面に平成 6
(1994)年 11 月吉日建立とあります。

概略マップ





三原にある狛犬



今回は、前回に引き続き中之町・東町・八幡町の狛犬を紹介します。

3. 賀羅加波神社 ^{からかわ} 三原市中之町5丁目10-20

神社名の由来には、降水量の少ない瀬戸内沿岸にあって貴重な水を神格化し、干川（からかわ）賀羅加波となった説、また朝鮮半島からの帰化人に起因とする説の二説があります。



単位：cm			
	高さ	幅	奥行
阿形	108	67	40
吽形	114	67	41
年代	大正 12 (1923) 年 11 月		
石工	不明		
石材	花崗岩		
型	玉乗り型		



4. 熊野神社 (籠怒神社) ^{くまの} 三原市東町3丁目 (神社名の読みは、広島県神社誌による)

和歌山新宮城主浅野氏が熊野水軍の崇拝していた熊野新宮をこの地に祀ったものです。



単位：cm			
	高さ	幅	奥行
阿形	100	66	35
吽形	103	65	33
年代	安永 5 (1858) 年		
石工	新七		
石材	花崗岩		
型	お座り型		



5. 和気神社 三原市八幡町宮内13

和気清麻呂ゆかりの神社では「猪は清麻呂の守護神」として安置しています。



単位：cm			
	高さ	幅	奥行
阿形	81	53	53
吽形	83	54	54
年代	平成 16 (2004) 年		
石工	掛田石材店		
石材	花崗岩		
型	不明 (構え型?)		



お詫びと訂正：前回瀧宮神社の住所を間違って記載していました。正しくは、三原市中之町1丁目1-1です。